「ありがとう」の言葉と笑顔に支えられて

小野貴子［おの・たかこ］
老人保健施設西山ウエルケア（静岡県）
介護長

はじめに

私の勤めている医療法人社団一穂会（いっすいかい）の老健施設「西山ウエルケア」は静岡県西部の浜松市にあり、1989年に静岡県初の老健施設として開設されました。当法人は西山病院を中心とする西山病院グループの一員として、介護医療院、通所リハビリ、通所介護、訪問介護、グループホーム、居宅支援センター、地域包括支援センターなどを運営しています。グループ全体としては、入所系710床、通所系定員410名／日のサービスを提供し、医療と介護の両面から地域の高齢者やご家族の暮らしを支えてきました。

当グループの基本理念「気持ちのわかる親切・なごやかな雰囲気・清潔」をもとに、在宅強化型の老健施設として在宅復帰や、その人らしい生活を取り戻していく支援をしています。「ここで過ごせてよかった」と思っていただける支援とは何かを模索しながら仕事に励んでいます。

私が介護職として働き始めてから20年を超える月日が流れ、その間、介護福祉士の資格も取得しました。現在は当施設の介護長として働いています。今回は、私がこの道を選んだきっかけや、現場を通して抱く思いについてお話しさせていただきます。

介護との出会い

西山病院の開設当初、私の祖母が入院することになりました。しかし、当時まだ10代だった私にとって、病院という場所は独特の雰囲気が漂い、どこか近寄り難い場所でした。高齢者の方々とどう接してよいのかもわからず、病院へ足を運ぶことすら億劫に感じていたほどでした。

私は高校卒業後、情報処理関係の会社で働いていました。30代半ばで転職を考えた折、西山病院の求人に目が留まり、「これも何かの縁かもしれない」と応募したことが介護職としての始まりでした。入職当初は知識も技術も未熟で戸惑いの連続、介護について深く考える余裕もなく、無我夢中で働く日々でしたが、なんとか介護職として新しいスタートを切ったのでした。

仕事への原動力

入職後、数年がたった日のことです。あるご利用者が昔好きだった音楽の話題になり、私が口ずさんだ歌のフレーズに合わせて笑顔で手拍子を打ってくださいました。「この方の心には、いまも記憶や感情が息づいている」と深く胸を打たれた瞬間でした。それから私は、ご利用者の過去の趣味や好きだったこと、興味のありそうなことなどを深く知ることの大切さを学びました。この経験を通じて、私のなかで「介護」という仕事が明確になりました。介護とは、単に身体の不自由さを補うだけの「お世話」ではありません。その人が歩んできた人生の歴史を尊重し、その人らしさをもう一度取り戻すための伴走者であると感じています。

当施設では、医師や看護師、リハビリ専門職、ケアマネジャー、そして介護職など、多職種が密に連携し、「自宅へ戻る」という同じ目標に向かってチームで支え合っています。そのなかでも私たち介護職は、ご利用者の一番近くで生活を支える存在です。だからこそ、日々の小さな変化や、その人の「やりたい」という気持ちに気づくことができるのだと感じています。

ときには思いどおりにならない葛藤や、厳しさを感じることもありますが、ご利用者やご家族からのたくさんの「ありがとう」と笑顔が、私にとって大きな原